第11号
２０２３年１０月１日発行

海匝・山武 男女共同参画だより

～ 地 域 で ひ ろ が る 笑 顔 の 輪 ～

「男女共同参画」とは、地域の一人一人がお互いを尊重し合い、笑顔で過ごせる社会を目指すもので、ごく身近にあるものです。「男女共同参画だより」は、それぞれの地域で男女共同参画に携わるお仕事・活動をしている方々や、県から委嘱を受けた地域推進員の活動を紹介しています。

引退した女性アスリートに拍手とエールを！　銚子市（岩瀬 賢氏・山本 政美・金尾 記子）

今回は、銚子市で二人目のオリンピアン(トライアスロン競技)の加藤友里恵さんを取材しました。

加藤さんは、生まれてすぐ銚子にきて青春時代を過ごしました。

現在、東京在住の彼女にとって銚子市は、“海の幸・山の幸”に恵まれていて、安心感がある、とても良い町だそうです。

もうじき２児の母となる彼女が、今、強く感じていることは、引退した女性アスリートの社会的処遇、例えばコーチ等への処遇やカムバックできる環境等が日本では欧米と比較してとても貧弱だという点です。子供を産み、またオリンピックに出場している外国人選手を見る度に納得せざるを得ません。

加藤　友里恵さん

現在は、ランニング、水泳、サイクリング等の教室を開催し、幅広い年代に指導をしたり、講演の依頼を受けたり、イベント等で「まちおこし」として、銚子の魅力（ロケーション・食べ物）を伝えていく活動をしています。また、こうして彼女が活躍できるのも、理解し合える家族がいるからという事です。

一女性の持続的な社会貢献活動に拍手とエールを送りたいと思います。

消防団も「ジェンダーレス」～輝く女性消防団員～　山武市（諏訪 富美江）

山武市消防団女性部でご活躍されている、石渡恵子さんと柳瀬真実さんのお二人を取材しました。格好よく・明るく・元気いっぱいのお二人は、活動服をキリッと着こなし、凛々しいお姿で臨んでくださいました。

入団のきっかけは、地域貢献したい・自分に出来ることがあればと思ったからだそうです。

また、先輩方が素晴らしい・資格も取得できる・活動服への憧れ・ご家族や職場の理解もある等、たくさんの強い想いを語ってくださいました。

(写真右側　石渡恵子さん(左)と柳瀬真実さん(右))

防火啓発運動を学童クラブで行ったり、女性に配慮したAED の使い方を周知したり、「女性ならではの活動は自分達にしかできない」とやりがいを感じているとのことです。

医療・介護の現場で働く団員のほかにも、団員の各々が長所を活かして活動されているようです。

単身高齢者世帯の火事が多いことから、防災のアドバイスの機会を作りたいと語るほか、「誰もがその人らしく地域で尊重しあいながら、楽しく安全に暮らしていけるように」と、正義感にあふれるお二人の抱負がありました。

エネルギッシュでキラキラと輝く、お二人の今後の活躍が楽しみです。

めざすは ナイチンゲール！～旭中央病院附属看護専門学校～　旭市（伊藤 浩子・小橋 静枝）

旭中央病院附属看護専門学校は、全校の 15%が男子学生で、お話を伺った２学年は、55 名中８名が学んでいます。

志望動機は、身内に看護師がおられ、その影響を受けたとの　意見が多く、学費や就職が確約されている点も魅力のようです。

入学して半年後、ナイチンゲール精神の灯を受け継いでいく**継灯式**が行われ、生徒達がオリジナルの「誓いの言葉」を述べ心も新たにしたということです。

２学年の今、技能面に加え、患者への配慮や自立を促せる支援が大切であり、実習では将来の臨床や現場で生かせる事を常に念頭に置いて取り組んでいるそうです。

旭中央病院看護専門学校２学年男子学生の皆さん

卒業後は、「認定看護師の資格をとって地元で働きたい・尊敬する母親に負けないように患者さんを笑顔にし、関係性を作っていきたい・他の道も模索していきたい」等答えてくれ、大きな夢を持ちながらも目の前の現実と向き合い学んでいます。

ジェンダー教育を受け育ってきた彼らは女性多数の場と認識しつつもあまり窮屈さを感じず自分の考えをしっかりと語ります。

これからの道、様々な困難に負けず輝く未来に向かって頑張る彼らを応援していきたいと思います。

ドキドキときめく芝山町をめざして　芝山町（石井 正恵）

今年、芝山町に町を元気にしたい！を合言葉に年齢も職業も様々な女性が集まり、女性目線で町の活性化や住みやすさの向上など多岐にわたる内容を関係団体に向けて発信したり、各種イベントを企画するサークルが誕生しました。

名称は「ドキドキはにわ部」。メンバーは、町内の建設会社を経営し、それぞれ一級建築士、洋裁教室講師、町議会議員、フォトスタジオ経営、司会業、芝山の大地に根ざした農家、郵便局勤務とたくさんの方とネットワークをお持ちの方で構成されており、年齢も三十代から五十代と幅広いです。

ドキドキはにわ部の皆さん

まず、芝山町の埴輪の魅力と価値をもっと知ってもらうため、コロナ禍以来中止、規模縮小だった「はにわ祭り」に参加する準備を始めています。

また、子育て世代、生活者としての生の声を町長への提言としてまとめ、近日提出をするそうです。

どこの団体にも属さず、心意気だけで集まったジャンヌ・ダルク達の活躍に、ドキドキ期待したいと思います。

千葉県男女共同参画地域推進員とは

男女共同参画社会づくりを進めていくためには、県民一人ひとりの意識を高めることが必要です。

そのため、千葉県では「千葉県男女共同参画地域推進員」を知事が委嘱し、地域推進員は県内６つの地域に分かれて活動しています。

地域推進員は、地域と市町村・県とのパイプ役となり、各地域の特性を踏まえて、講座・講演会の開催や広報誌などの事業を通じ、地域での男女共同参画の意識の普及・啓発をしています。

～あなたらしく 自分らしく そして未来へ～　　九十九里町（松木 加津江・二葉 久枝）

今年は、九十九里町役場企画政策課を訪問しました。

長年、待ち望んでおりました九十九里町男女共同参画計画が令和５年４月策定されました。

策定に係り実施した「男女共同参画社会の実現に向けての住民アンケート調査」の結果では、「社会全体」「家庭」「職場」「学校教育」「政治」「法律・制度」「社会通念・習慣」などの各分野における男女平等感の問いに対し、すべての分野で男性優遇感を持つ人の割合が多く、依然として男性と女性の役割を固定化する意識や社会慣行が根強く存在することが明らかになりました。

九十九里町男女共同参画計画と
同　　企画政策課職員

九十九里町で一人ひとりが個人として尊重され、男女が対等な構成員としてあらゆる分野における能力を発揮することができる男女共同参画社会形成のための取り組みが急務であると言えます。

計画が策定され、冊子を作成して満足するのではなく、この計画が町民の皆様に身近に感じていただくため、推進員としての務めを果たせるよう、努めて参ります。

世界に一つだけの藍を求めて　　横芝光町（伊藤 清美・石川 真由美）

藍染めと機織り(はたおり)の「工房 藍い鳥(あおいとり)」を営む、大熊恵子さんからお話を伺いました。

大熊さんは藍に出会って 30 年。藍に興味をもち、工房に通って藍染めを学ばれました。日々藍の発酵具合を確かめ、藍染めをしています。

大熊　恵子さん

ご自身が藍で染めた糸を使い、和機(わばた)で布を織ったり、 藍で染めた布を再利用し裂き織りをしています。

工房を訪ねると、すぐに「藍染めの体験をしてみてください。」と、行程を教えていただき、早速白い布が藍色に染まっていく様子を実体験することができました。また、藍に夢中で取り組むうちに仕立て屋さんなど何人もの素敵な人との出会いがあり、価値ある作品が生まれ、夢が広がってきたとお聞きしました。

大熊さんからは、藍染めは植物の命をいただくお仕事だから、こちらも命懸けて仕事してます。という、職人魂を感じました。

好きなことを仕事に、そして追い求め続けている大熊さんの人柄と考え方に、魅力と刺激を受けました。

農業から食育へ　　匝瑳市　男女共同参画担当

匝瑳市で代々続く農家「みやもと山」の齊藤ふみ子さん。家族で、有機栽培による米や大豆の生産を中心に、梅干や味噌などの加工をした発酵食品を手作りしています。

有機栽培を始めたきっかけは、現在、農業の大黒柱となっている息子さんが幼少期にアトピーだったことから、体に良いものを食べてもらおうと自家栽培したことでした。

自然が好きで、その中で自ら野菜や料理を作ることが年々楽しくなり、今ではほぼ自給自足になったそうです。

齊藤　ふみ子さん

「美味しいお米を届けたい」という一心で、マルシェでおにぎりなどの販売を行っており、購入者の多くが女性であることから女性目線での商品開発になることが多いそうです。

また、民話の語り部としても活躍されています。古事記に着想を得たお話から「かみさまの食堂」という紙芝居を自身でつくり、子ども達が民話を楽しみながら、昔からある日本の食べ物の大切さに気づけるよう語りかける活動は、食育にもつながっています。

子育て応援会社、ここにあり　　大網白里市（今井 静子・塚田 みえ子）

学童最終日のひとコマ

子連れ出勤を応援する会社が大網白里市にあるのをご存じですか。

今回は、本業の不動産業６割、地域活動４割というユニークな会社の会長である大里綜合管理の野老真理子さんを取材しました。

社員の赤ちゃんが、会社の大きなテーブルの上で過ごしている―ちょっと想像してみてください。赤ちゃんが会社にいることでどんなに癒されることか・・・会長曰く「効率化、合理化の名のもとにゆとりや人間的な温かさは失われてきてしまいましたが、会社に小さな子どもがいることで心が和み、癒され、人としてまっとうになれることがあるんです。子育ても支えられたらと思っています。」と。

また、夏休みの学童保育も今年で 30 周年を迎えます。５，６年生がリーダーとなり、子どもたちの自治で運営されています。

昼食は自分たちで手作り、15 キロウォークやキャンプなど数々のイベントでいろいろなドラマを経験し、ひと回り大きな自分に成長します。この学童も働く親たちの強力な助っ人となっています。

「困っているときに助け合える社会であれば、男女の違いや障がい、国籍など関係なく、当たり前に一緒に楽しく暮らせる社会になるはずです。」と。誰でも笑顔で受け入れる会長の生きざまそのままの言葉が、会社の経営方針になっています。これからも会長のご活躍にご注目ください。

尚、大里綜合管理は 2008 年、県の男女共同参画推進事業所奨励賞を受賞しています。

強い原動力を胸に　　東金市（石川 安子・古川 煌子）

フラメンコ講師、株式会社ミキティランド代表、東金市公認特産 PR 大使など、多岐にわたり活動している土肥美木子さん。PR 代行業を行う自身の会社では、福祉活動として障害のある人のために仕事の創出に取り組まれています。仕事以外では、田植え体験等の地域活性化イベントの主催もされています。

さまざまな活動をする原動力はふたつあり、ひとつ目が、パラリンピック競技の選手を介助した際に、福祉のあり方を考えるようになったこと。ふたつ目が、自身が抱えていたトラブルを周りの人の協力によって解決できた経験から、困っている人々を助けられるチームを作れたらと思ったことだそうです。

今後の抱負をお聞きすると、NPO 法人を立ち上げることだとお話ししてくださいました。

土肥　美木子さん

土肥さんは、活動の中で、子どもから高齢者まで、どんな方でも自分らしく楽しめる場を創り出しています。自分の志と向き合い次々と挑戦していく姿に芯の強さを感じました。次はどんな企画が土肥さんから発信されるのかを楽しみにしています。

男女共同参画だよりへの感想をお寄せ下さい

『海匝・山武男女共同参画だより』をお手にとっていただき、ありがとうございました。
右の２次元コードまたは URL の
『ちば電子申請サービス』にて、
ご感想をいただければ幸いです。
『男女共同参画だより第 11 号感想』

URL：https://apply.e-tumo.jp/pref-chiba-u/offer/offerList_detail?tempSeq=23320

＜発行＞
千葉県男女共同参画地域推進員（海匝・山武地域）
＜事務局＞
千葉県男女共同参画センター
〒260-0001　千葉市中央区都町 2-1-12
TEL：043-420-8411　FAX：043-420-8581
公式 X(旧 Twitter)：chibakensankaku